高学年児童の主体性とリーダー性の育成

～ 夢の丘小学校での特別活動の実践を通して ～

淵野辺東小学校　**山田　良恵**

1　はじめに

「望ましい人間関係を形成すること」が特別活動の目標の基本である。それを通して、「集団への所属感や連帯感を深めること」や「協力してよりよい学校生活を築こうとすること」が学校行事の目標であり、それに向けた「自主的・実践的な態度を育てる」が、児童会活動の目標である。特別活動主任として、また、最高学年の担任として先の目標が実現できるよう、児童の主体性やリーダー性をどう培っていけばよいかについて、さまざまな取り組みを行った。

長年、夢の丘小学校では、「異学年集団で行動する中で、自覚や責任、協力の姿勢を育む」を目標としたたてわり活動が学校づくりの一つの大きな柱になっている。また、「児童会」は、「夢小の子どもたちの夢（願い）を子どもたちの手でリードしていく」という思いから「ドリームリード」と名付けられ、児童が主体的に学校づくりに参画している。彼らの目標は、「学校のリーダーとして学校をよりよくする、伝統を守りながら、新たな歴史を創っていく」である。

５月に行われる春デーは、１学期の１番大きな行事であるとともに、たてわり活動のスタートとしても、また、ドリームリードの最初の活躍の場としても、とても大きな位置づけになっている。児童の主体性を生かした春デーにすることで、高学年児童のリーダー性が高められ、年間を通したたてわり活動の充実につながると考えた。また、ドリームリード（児童会）の年間を通じた活動では、児童の願いや思いを子どもたちの手で実現させていくことで、「自分たちが夢の丘小学校の学校生活を創っている」という意識へと繋がり、「自分たちでもっと活動してみたい」「新しい活動にも挑戦してみたい」と思える特別活動となり、より達成感や自己肯定感の高まる有意義な活動につながると考えた。児童を支援する立場として教師が、見通しをもって計画し、実践していくことで、より子どもたちの願いや思いが反映された活動を生み出すことができるのではないかと考えた。

Ⅱ　研究計画（特別活動年間計画）

特別活動の年間計画には、前述の春デーをはじめ、各学期に、たてわり活動が計画されている。また、児童会活動では、学期ごとに児童が創意工夫し、学校をよりよくしようとする活動を入れることで、学期ごとのめあてをもって取り組めるように計画した。

●１学期
- 新１年生を迎える会
- 学校のテーマ決め
- 夢小スマイルプロジェクト
  （ふわふわ言葉を使おう活動）
- 春デー（全校たてわり遠足）

●２学期
- 夢小あいさつ運動
- 夢のスポーツフェスタ（運動会）

●３学期
・東日本大震災復興募金活動
・たてわり（色別）お別れ集会
・来年度新１年生を迎える会について
●通年
・ドリームリード会議（児童会会議）
・なかよし会議（代表委員会）
・ゆめっこタイム（たてわり遊び）

Ⅲ　教育実践・活動

（１）リーダー性を育む春デー（全校遠足）

春デーでは、全校遠足をたてわりグループで実施することで､｢異学年の友だちと仲良くできるようにする」、「相手の立場になって考えたり、互いのよさを認め合ったりできるようにする」、「共に活動する喜びを味わえるようにする」、「高学年としてのリーダー性を培う」をねらいとして実施した。たてわりグループという異学年集団での交流を通して、各学年の児童が上級生の姿を見て、自分の目標とし、下級生に対して思いやりをもって接することができると考える。

そして、そのねらいに迫るため、高学年児童の主体性、リーダーとしての意識を高める「高学年会議」、ドリームリード（児童会）５年児童による「ドリームリードアトラクション」、春デーでの異学年交流の場となる「たてわり活動」の３つを意識し、活動の計画を立てた。

●５・６年リーダーとしての意識の向上
（児童が運営する高学年会議）

春デーという全校遠足を成功させるために、５・６年の全児童を対象とした「高学年会議」を３回行った。初回の高学年会議では､「春デーを創るのは、高学年の自分たちの力だ」とドリームリード児童の言葉で高学年児童のリーダーとしての意識を高めた。そして、高学年会議をドリームリード児童が運営できるように事前に打ち合わせを行い、進行や高学年会議のねらいを共有し、明確化した。自分たちの仲間が高学年会議を進めることで「自分たちもグループのリーダーとして頑張ろう」という意欲の向上につながった。

（６年児童の感想）
・最後の春デーだから思いっきり楽しみたいし、楽しんでもらいたいと思ったので、高学年会議の時に遊びを提案した。

●５年生の活躍の場づくり
（ドリームリードアトラクション）

ドリームリード児童が中心となって創りあげる春デーは、５月に行われるという時期からも高学年の仲間入りをした５年児童にとって、最初の大きな活動となる。５年生の意識を高める手だてとして、「ドリームヒーロー」として５年生に活躍の場を与えることを行った。それまでの活動では、昨年度のドリームリードの活動を知っている６年生が中心となって話し合いを進めたり、呼びかけを行ったりと活動の主役が６年生になりがちであったが、春デーを成功させるべく、登場する「ドリームヒーロー」は５年生の意欲付けに大きな役割があると考えられる。出発式で６年生児童扮する「ブラック団（悪役）」によって春デーが脅かされる。そこで、低学年にとっても親しみやすいヒーローが登場することで、「みんなで協力して春デーを楽しもう」「あんなかっこいい高学年に自分もなりたい」と高学年への憧れをもつことができた。

そして、相模原公園内では、ドリームリードが主催するオリエンテーリングをクリアしていくことで悪役に捕らえられていた教頭先生を救い出すという５年生児童のアイディアでストーリー性をもたせ、春デー全体が大きなアトラクションになるように計画を立てた。

●望ましい人間関係を築くための異学年交流とねらいの明確化（たてわり活動）

1～６年生が各色１２グループに分かれ、担任ではなく、担当職員とともに６年生がリーダーとなり相模原公園まで歩いて行く。１-６年、２-４年、３-５年と「ペア学年」を作り、高学年にそれぞれ「ペアの下級生の面倒を見る」というねらいを明確化し、高学年会議でペアを自分たちで決めさせた。ペアを決める時も６年生は事前に教室で話し合いを行い、4・5年の手本となれるよう共通理解し、グループ活動内でのペア決めをスムーズに行えるように準備した。

また、相模原公園での午後の部では、６年生が企画したグループ遊びを行い、異学年間で共に遊びながら、グループの絆を深めた。リーダーである６年生が遊びを考えるときに「たてわりでの絆を深め、新しい友だちのいいところを見つけよう」という春デーのめあてを共有し、確認したことで「１年生や他の学年の友だちも楽しめる遊びにしよう」と、工夫し遊びを計画することができた。そして、「１年生が楽しそうにしていたから良かった」と、自分のことよりも他者を思いやる心

が育っていた。また、公園への往復や公園内での活動場面では、高学年が低学年と手を繋いだり、長い道のりで疲れた様子の下級生に「あともうちょっとだから頑張ろう」と、励ましの言葉をかけたりと、異学年交流から自然と相手に優しく接しようとする姿が見られた。

（６年児童の感想）

・今年の春デーは、いつもより疲れた。今までの６年生がしてくれたように自分も１～５年生のお手本になれたらいいなと思った。

・１年生と歩くとき、いっぱい話もできたし、楽しく遊べて、１年生の笑顔が見られてよかった。

（２）主体性を生かしたドリームリード（児童会）

～3学期　なかよし会議・ドリームリード・プロジェクトリーダー会議の予定～

1月 日	曜	学校行事	計画予定	2月 日	曜	学校行事	計画予定	3月 日	曜	学校行事	計画予定
1	水			1	土		ドリームリード会議	1	土	全校朝会/色別応援れ集会	ドリームリード会議
2	木			2	日			2	日		
3	金			3	月	5年芋あゆ		3	月		
4	土			4	火	5年芋あゆ/全校朝会		4	火	全校朝会（放送）	第10回なかよし会議(3年～6年)
5	日			5	水			5	水		
6	月			6	木			6	木		
7	火			7	金		ドリームリード会議	7	金	B5日課	
8	水	3学期始業式		8	土			8	土		ドリームリード会議（引き継ぎ）
9	木	B4日課		9	日			9	日		
10	金	給食開始		10	月			10	月	B5日課	
11	土			11	火	建国記念日		11	火	学年集会	
12	日			12	水	学年集会/A4日課		12	水	B5日課	
13	月	成人の日		13	木			13	木	卒業式予行練習	
14	火	伊奈祭会		14	金		第14回なかよし会議(4、5年生)	14	金	B5日課	
15	水	A4日課		15	土		参観授業会	15	土		
16	木			16	日			16	日		
17	金	授業参観5、6校時	ドリームリード会議	17	月	学習発表会振替休日		17	月		
18	土		ドリームリード会議	18	火			18	火	給食関係/音楽集会(お別れ式)	
19	日			19	水			19	水	B4日課	
20	月			20	木	登校班長新班長会議(夏)		20	木	第12回卒業証書授与式	
21	火	児童集会		21	金			21	金	春分の日	
22	水	プロジェクト6校時	プロジェクトリーダー会議(中)	22	土		ドリームリード会議	22	土		
23	木			23	日			23	日		
24	金		第13回なかよし会議	24	月			24	月	B4日課	
25	土			25	火	児童集会	夢っ子いいとこ週間	25	火	平成25年度修了式	
26	日			26	水	プロジェクト6校時	プロジェクトリーダー会議(中)	26	水		
27	月			27	木			27	木		
28	火	音楽集会	夢っ子いいとこ週間	28	金			28	金		
29	水							29	土		
30	木							30	日		
31	金	登校班会議(朝)						31	月		

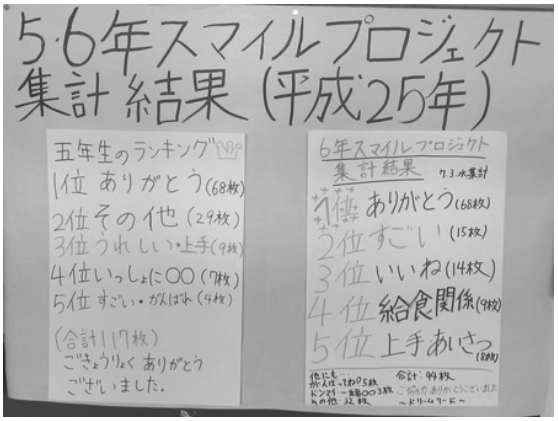
なかよし会議は、1：15～(ロング昼休み)　会議室で行います。予定表を見ながら、おくれずに参加しましょう！

プロジェクトリーダー会議は、中休みに6年生オープンで行います。予定表を見ながら、おくれずに参加しましょう！

ドリームリード(児童会)、なかよし会議(代表委員会議）の運営などを行う。学校行事に関する活動とともに、必ず学期ごとに子どもの思いや願いを生かした活動に取り組めるよう年間計画を立てた。

●問い返しによる児童の願いや思いの具体化（夢小スマイルプロジェクト：１学期）

夢小スマイルプロジェクトとは、「みんながもっと学校に来るのが楽しくなるように、気持ちの良い言葉（ふわふわ言葉）でいっぱいの笑顔あふれる学校にしよう」という活動である。春デーという一つの大きな活動が終わったことで、学校全体についてふり返り、ドリームリード児童にどんな学校にしていきたいかと問いかけた。児童からは「笑顔あふれる学校」という答えが返ってきたので、「笑顔あふれる学校ってどんな学校なのか」「どうやって全校に投げかけるか」「そのために何の準備が必要か」など、子どもの思いや願いを子どもの言葉で引き出すことで具体化を図る問い返しを行った。その活動は、昼の放送や集会で呼びかけながら 10 日間行った。学級に小さな紙を配布し、言われてうれしかった言葉や友達の良さ見つけを自由に記入し、「ふわふわボックス」に入れてもらった。



活動期間が終わると、活動を集計し、各学年のスマイルプロジェクトで出た言葉の紹介とランキング形式での結果発表を行った。各学年の言葉は、学年オープンスペースに掲示することにより、「どんな言葉が言われて嬉しい言葉なのか」「自分たちの学校にはこんなたくさんのふわふわ言葉があふれている学校だ」と視覚的に捉えることができ、子どもたちの中でプラスの言葉かけへの価値付けを行うことができた。また、集計結果の発表を１学期終業式後に全校の前で発表を行ったこと

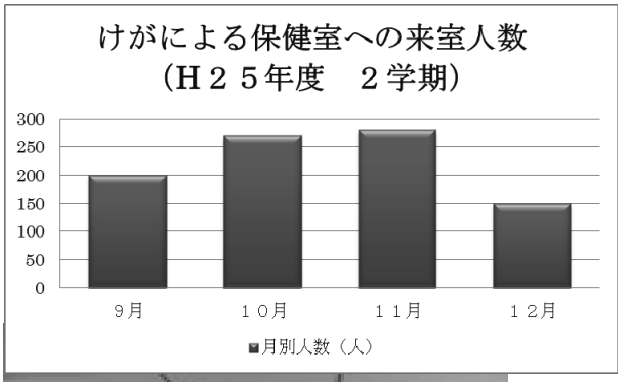
で、ドリームリード児童の達成感へと繋がり、２学期の活動では、自分たちで考えた活動への意欲がさらに高まった。

（ドリームリード児童の感想）
・夢小は、「ありがとう」など、言われて嬉しいふわふわ言葉を使っている人が多いことがわかった。みんながもっとふわふわ言葉を使うことで、みんなが楽しいと思える学校にしていきたい。

●児童の達成感を高める価値付けと全校への発信（夢小あいさつ運動：２学期）

２学期のあいさつ運動は、ゆめスポ（運動会）後の学校生活の中で学校の課題について問いかけ、「学校の中を走っている人が多い」「あいさつをもっと広めたい」という児童の思いから企画された。そこで、２学期は「学校のルールを守ろう」をテーマにあいさつ運動や校内パトロールなど、なかよし委員（代表委員）を巻き込んだ定期的な活動へと発展していった。校門や昇降口でのあいさつ運動では、全校にあいさつを呼びかけるとともに、あいさつ運動の取り組みをお昼のテレビ放送やラジオ放送を活用し、全校へと発信することであいさつの活性化を呼びかけた。

12月に行った校内パトロールでは、休み時間に校内を回り、「廊下歩行、右側通行、名札をつける」などルールを守り、安全に過ごすことの大切さを全校に呼びかけた。養護教諭に協力を依頼し、月ごとのけが人の数を調べたところ、パトロールを実施した１２月のけが人の数は、11月の半分に減少しており、数字的にも成果が表れた。この結果を聞き、ドリームリード児童は、「こんなに効果があるなんて、本当にやって良かった」と、自分たちの活動にやりがいを感じることができた。



（ドリームリード児童の感想）
・学校のルールを守ることもあいさつも当たり前のことだけど、この当たり前をきちんとできるような企画をこれからもしていきたい

●児童に見通しをもたせるための年間計画づくりと活動の定着化

（大船渡市復興への募金活動：３学期）

４月のドリームリード会議で学校行事と会議日程を書いた年間計画を提示した。そして、４月の時点で年間の見通しを立て、児童と一緒に学期ごとの流れを確認した。１・２学期の活動では、学期ごと、さらに月ごとと短期スパンでの活動の流れを共有した。また、実践したことの振り返りも共有するよう心がけた。３学期になり、３学期の活動の柱を考える際は、会議や活動の流れが定着したことで、児童が自ら進める話し合いとして児童同士の考えが深まり、「学校の中だけでなく、学校の外の人たちのために何かできることをしたい」とより広い視野や考えをもち、スムーズに活動をスタートさせることができた。

子どもたちの高まった意識から出た意見は、相模原市とつながりの深い岩手県大船渡市への募金活動だった。「自分たちは、今、普通に生活しているけれど、まだ不便な暮らしを送っている人もいるから自分たちにできることをしたい」と、震災が起こった３月 11 日の週に募金活動を行った。

（ドリームリード児童の感想）

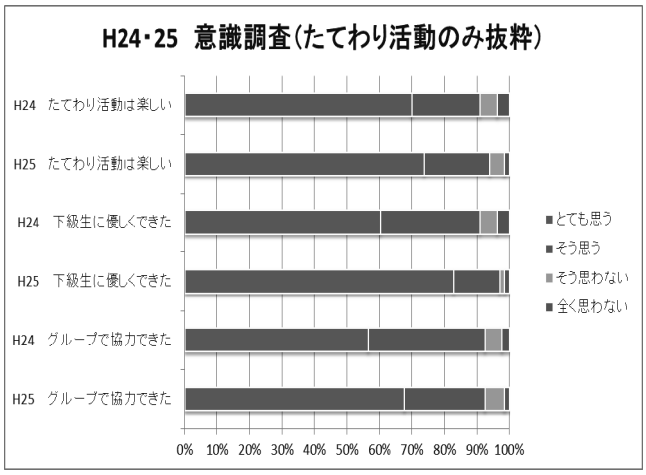
・自分の意見を積極的に出し、新しいアイディアで夢小をよりよくしようとすることができた。自分たちができることから東北で苦労している人たちや世界の貧しい国の人たちのために貢献していきたい。

Ⅳ　分析・考察

（１）研究の成果

●子どもが主役の特別活動

子どもたちの「自主的・主体的な態度を育てる」ために、子どもたちが活躍し、自分たちで創りあげる活動にすることが必要である。春デーに向けた取り組みでは、高学年会議や出発式、アトラクションやグループ遊びなど、教師が子どもたちに指示するのではなく、６年のリーダーやドリームリードなど、児童の手で運営することができた。児童の力で運営するためには、「今、何をしなければいけないのか」「何のためにやるのか」「自分の役割は何なのか」など、運営側の児童が理解しておく必要がある。そこで、児童に任せきりにしてしまうのではなく、子どもたち一人ひとりがしっかりと自分自身のねらいをもって取り組めるよう、事前に児童の言葉で考えを引き出したり、まとめたりする作業をしながら確認することで、前に立つリーダーが自信を持って運営できる活躍の場となった。



24・25 年度に行った児童の意識調査では、たてわり活動に関する「春デーなどのたてわり活動は楽しい」「下級生に優しく接することができた」「グループの友だちと協力して活動できた」の３項目で、６年生は、５年生の時よりも６年生になってからの方が「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的回答の割合が高かった。特に「下級生に優しく」では、５年

生のとき約60%だった「とてもそう思う」の回答が６年生になり、80%を上回る結果となった。異学年集団での活動を通して、言うことを聞いてくれない子、何をやってよいのか分からず困っている子など、下級生とのふれあいから下級生に対する思いやりの気持ちを高まったと言える。

●児童の自己肯定感を高める

ドリームリードの活動では、児童の活動の過程や結果を掲示などで視覚化したり、発表する場面を設けたりすることで自分たちの活動への価値付けを行うことができた。活動への達成感を感じることで自己肯定感が高まり、次の活動の意欲へとつながった。

●児童の思いや願いを反映する

児童が「やらされているのではなく、自分たちで創り出す」児童主体の活動にするためには、児童の思いや願いが活動に反映されることが大切だと考えた。そこで、会議などでの話し合い活動では、教師が活動を押しつけてしまうのではなく、子どもたちから出た課題について考えることで、子どもたち自身の手で生まれた活動にすることができた。また、学校をよりよくしていくための子どもたちの願いを４年生以上を対象としたなかよし会議の中で取り入れていくことで、できるだけ多くの児童が学校をよりよくするための活動に参加する意識をもてるようにした。その結果、なかよし会議では、各クラスで話し合った新しいアイディアが提案され、実現する機会が見られた。

●児童が見通しをもって取り組める計画づくり

児童が主体的に取り組み、自発的に活動に参加するために、児童に見通しをもたせるように計画作りを行った。ドリームリードでは、最初に年間行事を確認し、行事に向けていつからどのような準備を進めていけば良いのか、考えさせるようにした。春デーなどの行事の前には、会議の流れを最初の会議で確認することで、全員で共有することができ、児童から「今日会議だね」や「今日は〇〇について話し合いを行います」など、自分たちで声をかけ合い、話し合いや準備を進めることができた。また、学年オープンスペースにあるホワイトボードを連絡や呼びかけのスペースとし、可視化も意識したことは、その一助になったと思われる。

（２）今後の課題

●会議や活動の効率化

高学年児童が積極的に活動することができるようになったが、高学年児童は行事などの兼ね合いで忙しく、そのため、児童への負担が多く、計画通りに進められない現状があった。よって、なかよし会議での原案説明や、各クラスからの賛成・反対などの意見の集約など効率化を図る必要がある。

●職員との情報の共有化

学校全体に関わる行事の中で、児童の力だけで全校を動かしていくことは難しい。そこで、全職員への、事前の相談や周知を心がけてきたが、活動をもっと発信し、時間をおかずに報告することで、職員との情報を共有し、児童を支援する職員間の共通理解をより一層高めることが今後も大切であると考える。

Ⅴ　まとめ

夢の丘小学校での実践から、教師が年間計画や行事に向けての短期計画を立て、見通しをもつことで、児童も見通しをもって活動することができ、より児童の自主性を伸ばすことがでることがわかった。また、計画の中で、児童の活動をどう発信し、価値付けしていくかで次への活動の意欲や工夫に繋がると感じた。今後も活動を視覚化し、児童の達成感の

高まる取り組みを行っていきたい。

Ⅵ　おわりに

ここに、たてわり活動が充実した夢の丘小学校で６年間を過ごした子どもたちの成長を紹介したい。１年生の時に上級生におんぶしてもらっていたＡさんは、自分が６年生になったとき、歩いて疲れ切った１年生を笑顔でおんぶしてあげていた。自分自身が受けた優しさを下級生に自然と返しているように、下級生を思いやる優しさが伝統として、夢の丘小学校に培われてきたのだと感じた。

また、２年生の時、グループから走り出して写真に写りこんでいたＢさんは、６年生になったとき、元気いっぱいの２年生がグループからはぐれてしまわないように後ろから優しく抱きしめてあげていた。高学年になるにつれて視野が広がり、自分のことよりもみんなのこと、グループのことを考えられるようになった成長の表れだと感じる。

最後に、Ｃ さんは、１年生の時、リーダーの証である旗を６年生からもらい、楽しそうにその旗で遊んでいた。それが、６年生となった彼は、グループのリーダーとして旗を持ち、その旗で１年生を文字通り、引っ張っていた。Ｃさんにとって、グループの旗を掲げ、グループをまとめる６年生の姿は頼もしく映ったのだろう。旗で遊んでいたＣさんが、自分自身がリーダーとなり、旗を掲げ、グループを引っ張る姿は、照れながらも嬉しそうな笑顔だった。低学年児童は、春デーなどのたてわり活動を通して、高学年に対して、あこがれの気持ちをもつと同時に、高学年の姿から５年後、６年後リーダーになる自分自身の目標として強く心に残っていくのだと感じた。

引用・参考文献

安彦忠彦 監修、児島邦宏・宮川八岐 編著、「小学校学習指導要領の解説と展開」教育出版、2008

楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター、2013

平成 23 年度完全実施 新教育課程指導資料集 小学校編　授業事例集平成 24 年度版、2012

平成 23 年度完全実施 新教育課程指導資料集 小学校編 Q&A 版　確かな学びを育む　特別活動、2012

小学校特別活動
www.karisen.gsn.ed.jp/boe/htdocs/?action=common

学習指導要領 改訂のポイント（小学校 特別活動）
www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/.../syo14tokuetukatudo_poit.pd

児童会活動はどう改善されたのか
www.edu.pref.kagoshima.jp/research/.../es/.../09s-tokukatu.pdf